

2014年1月11日（土）14:00～15:30 於：横浜美術館円形フォーラム

1月はいつもの例会に代わって、横浜美術館が主催する講演会を聴講しました。

## 「下村観山の見どころ」

岡倉天心生誕150年・没後100年記念 生誕140年記念 下村観山展 記念講演会

講師：木下長宏氏（美術史家）

日時：2014年1月11日（土） 14:00～15:30

会場：横浜美術館レクチャーホール



講演風景

「下村観山の見どころ」を聴講して

元来「絵っ痴」の私だが、当研究会で学ぼうちに日本画に関心が湧いた。翁は若き日本画家たちを三溪園に招き、美術研究会を盛んに開いた。所蔵の作品を前に「三溪先生」を囲んだ。興奮夜を徹したこの美術談義を、安田鞞彦は「楽園的会合」と回顧した。

一体どんな議論が飛び交ったの？日本画ってそんなに面白いの？翁が寄せた日本画への思いは・・・私の関心の出発点だ。そして、三溪翁が最も好んだ画家「下村観山の見どころ」の聴講の機会を得た。木下先生の視点は多岐に亘った。とりわけ「岡倉覚三から学んだ殺気（暗示？）の表現」や「肉眼で観る西洋画技法と心眼で観る東洋画技法の間での葛藤」が大切な見どころだとの示唆に合点した。きっと、こんな談義をしていたのだろう。この聴講は私にとっても「楽園的」であった。

（小林一彦）